

第4回学校活性化勝浦郡地域協議会議事録

〔協議題〕新しい教育について

委員

分校化については、これまでも議論がありましたが、地域協議会の任務は設置要綱に規定されており、委員の皆様も承認されていることと思います。私たちにとって、本校、分校は非常に大切なことですが、やはり特色があったり、魅力ある学校づくりを考えていくのが委員としての本務であると思います。そうした中で、県内の生徒数は確実に減少しており、勝浦高校が生き残れる学校、そして地域に根ざした特色ある学校づくりを進めるためには、今まで議論された内容の中から積み上げてきたものを結果として出していく必要があると思います。本校、分校については、別の組織で考えた方が良いと思います。

委員

分校化については反対の委員もおいででしたが、既に他の委員や県教育委員会にも、その思いは伝わっていると思います。これまでの地域協議会でも、かなりの時間を費やしてまいりました。委員の意見は、意見として受け止めますが、勝浦高校は、農業科の分校として活性化を図り存続をしていくということで、協議を進めさせていただきます。

委員

先程の発言に関連してですが、本校、分校について別の組織で考えるのであれば、どういう組織で考えるのかを回答していただきたいと思います。

県教育委員会

本校、分校についてを別の組織で考えるという予定はございません。勝浦高校は、高校再編方針の中で、農業教育を基本に分校として存続を図るとなっておりますので、その再編方針を踏まえ、勝浦高校が活性化できるような案を出していただきたいと考えております。

委員

県教育委員会では、県下全体の農業教育をどのようにしようと考えているのですか。また、その中で、勝浦高校の位置づけをどのように考えていますか。分校になると決まっているのであれば、どこの高校の分校にすると考えているのかお聞きしたいと思います。

県教育委員会

どこの分校にするかについては、今後、皆さんにご協議をいただきたいと思います。それをするためにも、早く、勝浦高校が農業科の学校としてどういう教育をするのか、特色ある教育をどうするのか、そうしたことに皆さんから知恵をいただき、その方向が決まれば、自ずとどこの高校と連携すれば良いのか決まってくると思います。

委員

徳島県の農業高校についてはどのように考えているのですか。また、最終報告書に、連携するとありますが、これについてはどのように考えていますか。

県教育委員会

基本的には、農業高校はどことも非常に規模が小さくなっておりますので、1つの高校であれもこれもと多くのことを行うのは難しい状況にあります。各校に特色を持たせて、農業高校が連携する中で、カバーをし合うことになると考えております。

委員

それでは、どこの分校になるのかは、まったく決まっていないうことですか。

県教育委員会

高校再編方針では、勝浦高校が分校になるということだけが決まっており、どこの分校になるかは決まっておりません。新しい勝浦高校の教育内容をどうするかによって、どこの高校を本校にするかが決まってくると思います。

委員

どこの分校になるかは、これからの話となります。教育内容、また特色ある教育について協議をしていただく中で、どこの分校となるかの方向性が出てくると思います。本日は、農業教育を基本に勝浦分校として存続を図るということで、これから協議を進めさせていただきます。

委員

前期選抜の倍率を見ていただいたとは思いますが、前期選抜に向けては、私をはじめ全職員が、生徒募集に向けて一生懸命頑張ってまいりました。そうした中で、同窓生や地域の方々の勝浦高校に対する熱い思いを強く感じ、それで頑張ってきたと思います。しかし、前期選抜を終えてみて、今のままの学校の形態では、生徒が集まらないとの思いを持ちました。本校が頑張っても、他校も必死で生徒を集めようと頑張っています。そうした中で、今の形態でいく

のは、限界であると感じております。先生方は生徒一人一人を大事に大事にしていますが、人間に関わっていただけでは、生徒が来てくれないのではないかと。まだまだ努力が足りないのかもしれませんが、先生方には遅くまで指導していただき、代々の校長先生も努力されてこられたことを考えると、もう新しい学校づくりを提示しないと、今後の子どもたちにアピールができないのではないかと考えております。

この地域協議会というのは、我々のものでも、地域のものでもないはずですが。今の中学生や小学生のためにどういう学校づくりをしていくかを考え、それが良い形でまとまったら、この協議会のねらいは達成できるのではないかと思います。そういった点からも、具体的な学校づくりの策をたくさんお寄せいただきますようお願いしたいと思います。

委員

それでは、新しい教育内容についての協議に入りたいと思いますが、今回、事務局の方で、勝浦高校と教育環境がよく似た農業科の分校を視察されています。分校でありながら活力と魅力ある学校です。それでは視察報告をお願いいたします。

A 分校の学校視察報告〔事務局〕

委員

ただ今の学校視察報告について、ご質問はありませんか。

委員

部活動には、どのようなものがありますか。

事務局

マウンテンバイク、カヌー、登山など特色のある部活動があります。

委員

野球やバレーなど団体競技はあまりなさそうですが、どうなんですか。

事務局

学校のグラウンドが勝浦高校の半分程度であり、球技関係は室内競技の卓球、バドミントンがあるぐらいです。

委員

それでは，A分校の視察内容を参考として，設置学科と教育内容についてご協議をいただきたいと思います。

前回の地域協議会で，設置学科と教育内容を協議した際に，委員の中から，「教育の中身が分かる資料，進路の見える資料を再度作ってほしい」とのご要望をいただいております。事務局の方で再検討し「設置学科と教育内容」について，新しい資料を作成していただいているのでしたら，まずはご説明をしていただき，その後，各委員のご意見をお伺いしたいと思います。

事務局

設置学科と教育内容の前に，前回の協議会で，最終，事務局に一任をいただいております「目指す教育」と「育てたい生徒像」について，前回ご提示したものを，表現について多少変更させていただきましたので，ご承認をお願いしたいと思います。

また，今回は，新たに「特色ある教育」についてもご提案させていただきたいと思います。これは，今，申し上げた「目指す教育」を実現し，「育てたい生徒像」にあるような生徒を育てるためには，どのような教育が必要であるか，すなわち，勝浦の新しい教育内容の具体的な方向性を示すものとして考えたものです。

「目指す教育」，「育てたい生徒像」，
及び「特色ある教育」について説明〔事務局〕

委員

「目指す教育」，「育てたい生徒像」，「特色ある教育」は，これによろしいでしょうか。

委員

学校視察報告の中で，勝浦高校活性化策の方向性を5項目示されておりましたが，私の希望としては，「目指す教育」の中に，勝浦高校の良いところである「一人一人の生徒を大切にする」の文言を入れていただきたいと思います。

事務局

「一人一人の生徒を大切にする」は，教育の基本に関わる大切なことですので，入れる方向で検討したいと思います。

委員

本校，分校の議論があるのは当然のことでしょう。なぜなら，個性を目指すということは非常に難しいことであって，その難しいことに挑戦し上手くいけば良いが，いかなかった場合の心配があるので，どうしても安定的な形を取る方が安心感があるということです。

でも，今，現実には，A分校のような子はたくさんいます。事実，上勝町に来るＩターンの人は，地元の人がやらない祭りの企画をしたり，イベントをしたり，田植えをしたりするのがすごく好きです。A分校の場合だと，山の中でカヌーができる，マウンテンバイクができる，登山もできるなどが魅力でしょう。私が講演の中で，田舎で起業したい人集まれと言えば多くの人が集まります。今は，何かをやりたいという人と，全く関心がない人と，完全に２極化しています。これを，勝浦高校に置き換えた場合，私が前回提案したのは，就職，すなわち次のステップにつながるものが親にとって非常に魅力があるので，それを重視するのか，それともA分校のように子どもにとって魅力ある教育を重視する方が良いのか，この論議が少し必要かなと考えています。

ただ，今示された教育内容では，幅が広すぎるので，１つに絞る方が良いと思います。何か１つができれば大丈夫だし，これだけの内容をするのは無理でしょう。何か１つがキラリと光れば，雰囲気が変わってくるし，ムードも良くなります。何か１つの攻めをつくって良い循環をさせると流れが良くなります。でも往々にして，田舎では，流れに対してものすごく弱いところがあります。１つの突破口をつくって良い循環で攻められるようになるとすごく乗ってきていい形ができてきますが，「やっても駄目だ」みたいな流れになると，ものすごいエネルギーが必要ですし，上手く回らない状況が出てきます。ですから，今回提示された教育内容は良いとは思いますが，あまりあれこれせずに，１つの突破口を見出して，この中でも何かを集中的にやるのが大切です。それが何かを読み切るには，先見の明が必要だし，この地域協議会の責任かもしれません。委員の知恵，地域の知恵，教育側の知恵を出し合って，それに賭けてみる，そして，やりながらの調整も必要でないかと思います。先が見えている就職も非常に魅力があるし，もしくは，これが好きだという人間を教育するのが良いのか，迷うところですが，どちらが良いかそれはやってみないとわからない。ＩＴが学べて商売に活かせる，ＬＥＤの技術者になれる，バイオを身につけ就職もできるとなれば親は行かせると思います。そうした先端産業との関連が，夢の部分のどちらを重視するのかを考え，整理する必要があると思います。

事務局

今のご意見は，すでに教育内容に踏み込んでおりますので，先に設置学科と教育内容をご説明させていただき，その後，ご協議いただくということによろしいでしょうか。

設置学科と教育内容について説明〔事務局〕

委員

教育のイメージ図の上部にある”目指せ！（進路）”の部分を見れば，就職を重視した教育となっているようです。しかし，私が迷っていると申したのは，先程，他の委員が言われた「一人一人を大切にせる教育」との選択です。A分校では，自分の居場所がここにあるということが魅力であり，一人一人を大切にせる教育となっている。勝浦高校も，そうした観点でも人は集まるかもわからないし，それよりも就職を重視した方が良いのか迷うところです。居場所の部分と就職のバランスがどうなのか，でもこれだけはやってみないとわからないと思います。

それにしても，正直な所，これだけの盛りだくさんの教育内容ができるのかなと思います。新しい分野が多いと思いますし。

委員

コース等に分けて行いますので，これら全てを1人の生徒がするのはありません。

委員

コースについては，「応用生産科」，「園芸福祉科」と「進学に対応した科」の3つということですか。

事務局

説明が充分ではありませんでしたので補足説明をいたします。学科については2つです。その上で，進学希望者にはどのような教育を行うか，ご説明いたします。現在の勝浦高校を参考にいたしますと，生徒が高校の3年間で学ぶ総単位数は96単位です。その内，高校生が学ばなければならない普通教科・科目が33単位程度ありますが，通常は50単位程度学んでいます。また，農業の専門学科ですので農業の専門科目は必ず学ぶ必要があり，25単位は下らないこととなっています。96単位から，この2つを合算した単位数を差し引いた残りの単位数は，普通科の教科・科目であったり，農業の専門科目であったりします。例えば，応用生産科で進学を希望する生徒であれば，応用生産科の農業の専門科目の代わりに，「数学」，「英語」や「理科」など，将来の進路に必要な教科・科目を選択履修することができるようにしています。さらに，進学希望者に対しては，こうした授業の工夫のほかに，課外授業（補習）を計画的に実施します。また，委員から「一人一人を大切にせる」とのご提案がありましたが，個別指導を徹底することで，入試に対応した学力を育成していこうと考えております。

委員

園芸分野，コンピュータ，LEDを利用した施設栽培，植物バイオテクノロジーの知識などを学ぶとなっていますが，こういう小学科を置いた場合に，それに見合うだけの施設・設備は充分あるのですか。過去と比べると農地もとても狭くなっていると思います。

事務局

以前は，沼江や久国に農場があり，確かに広がったですが，当時，そこでは果樹栽培を行っていました。しかし，現状では農場も狭いため，園芸福祉科の教育内容は，草花が中心であり，広い農場は必要としないように考えています。もちろん，圃場での実習も行いますが，小学校や福祉施設などと交流活動を行うなど学校外へ出向いて実習の形を取ることも考えています。応用生産科は，果樹・野菜が中心で，栽培の基礎を学ぶためにはある程度の広さも必要ですが，環境と絡めてLED栽培，つまり施設栽培となりますので，そんなに広い土地を必要とはいたしません。また，バイオ施設は県内一ですし，今後は，そういった現有の施設・設備を有効活用するような取り組みが大切です。確かに，農地についてはあまり広くありませんが，そうしたことを考慮したカリキュラムを組んでいくことも必要でしょうし，地域の方々のご協力が必要になる場合もあると考えております。

委員

徳島県の中核的な農業高校とするなら，ある程度の施設・整備はお願いできるのでしょうか。

委員

現有施設を有効に利用しての再編ということは重々分かっておりますが，現在の学校運営の中でも，やりたくてもできないことがありますので，新学科の教育内容に必要な農場や施設等の整備をお願いしたいと思います。

委員

県は，施設・設備の充実に必要な費用を予算化されているのでしょうか。

県教育委員会

施設・整備等のご要望はわかるのですが，まずは，その学校でどういう教育をするのかの方向性を決めていただいたら，教育内容の具体的なものも決まり，それができるような施設の整備をしていきたいと思います。ただ，県も財政的に余裕がないこともご理解いただきたいと思います。

委員

2学科ということですが、募集定員はどの程度と考えられていますか。人数はある程度必要と思いますし、コースも、資格が取れる、進学できる、研究ができるなど、最低3つぐらいは必要でないでしょうか。

また、学科の名称ですが、カタカナにするなど生徒が行きたいと思うようなネーミングはないのでしょうか。適切かどうかはわかりませんが、「進学科」、「技術科」、「研究科」などの方がわかりやすいと思います。学科名を見て中身がわかるような名称がよいと思います。

事務局

先程の農場の問題ですが、教育内容が決まりましたら、学校と協議し、施設・設備についても詰めていきたいと考えております。農場は確かに狭いのですが、以前も町から土地を借りるなどしておりました。今回もそういうことも視野に入れて考える必要があると思います。県ももちろん可能な限り努力しますが、地域のご協力をいただくことも必要であると考えます。

県教育委員会

募集定員についてですが、現在が普通科と農業科を合わせて60名、これは地域の生徒数や進学希望状況を踏まえて検討していますので、この地域の今後の生徒数の状況を考えますと60名を超すことは難しいと考えます。具体的に何名かと問われましても、何年度から新学科になるかもわかりませんので、申し上げにくい状況にあることをご理解いただきたいと思います。

また、設置学科を3つにとのご意見がありました。どこの高校におきましても、入学段階では進学か就職か迷っている生徒もたくさんおります。ですから、最初は今回の提案のように2学科を準備しておいて、進学希望する生徒を集めて進学に必要な科目を、あるいは資格取得に必要な科目を選択できるようにし、それでも足らなければ、課外授業（補習）を実施したり、個別指導も行うなど、徹底した指導で一人一人を大切に教育を行うことの方が、より生徒の実態に応じた教育ができるのではないかと考えております。

委員

最初、進学したいと思っていた生徒が、途中で技術を身につけたいと変更する場合もあると思いますので、中で流動的に移動するのが良いと思います。それを前提に、学科は最初から分けておいた方がメリハリがありますし、学科は多いほど良いと思います。少なくとも3つは必要でないかと思えます。

県教育委員会

そうしたことも充分検討した上で、今の2学科を提案させていただいております。ただ、1学年あたりの生徒数と、1学科あたりの生徒数を考えましたときに、2学科が適当と考えております。それから、高校はどここの学校に行きましても、第1学年で学ぶ科目の内容はよく似ており、その間に進路指導を行い、2年生からそれぞれの進路に分かれていくシステムを提案しております。この方が、高校に入ってから自分の進路を充分見据えることができますので、資格を取るのか、進学するのか、そうした希望にも充分対応できると考えております。

委員

中学生に聞きますと、半数ぐらいが、高校に入ってから進む方向を決めています。2年生で分かれる方が、生徒の実態には合っているように思います。

委員

企業が採用するという視点で、私達の立場から言えば、補助資料の教育課程のイメージ図で3つ（普通教科・科目、専門科目、選択科目）が均等になっていますが、「地域連携」の単位を3分の1ぐらい入れた方が良いと思います。農家へ出向いたり、小学校に行き行って教えてあげるとか、そうした教育がすごく大事だと思います。私も農業高校を出ていますが、農業高校で勉強した技術はあまり役に立っていません。人と接したり一緒になって学ぶことの方が、今の時代、すごく社会に出たときに大事になってきます。採用する側は、学力よりもそうした能力をすごく重視します。どこの企業も同じでないでしょうか。

事務局

農業科では、農業に関する専門科目は25単位を下らないとなっております。また必修科目として「農業科学基礎」か「環境科学基礎」のいずれかの科目と「課題研究」がありますが、どの科目も10分の5以上は実験・実習が必要となっております。

事務局

農業の科目には様々あり、例えば「生物活用」という科目では、園芸セラピーなど生物を生活に活かすことを学びますが、その学習の中身は、基礎理論は座学で学ぶ、栽培は農場で行い、活用するときには校外に出るわけです。このように1つの科目の中でも実習等は伴いますし、他にもそうした科目はあります。校外実習は、現在の勝浦高校でも行われていますし、内容によっては、夏休み等の長期休業日を利用することもあります。

委員

目指す学校とは何なんだろうと感じます。「目指す教育」、「育てたい生徒像」に対して、教育のイメージ図にあるIT農業経営者など将来の進路があまりに細かく決められすぎていると思います。将来の進路が決まっていない状況では、逆に決められすぎていると魅力がなくなると思います。学校が教育内容を絞って、強みを持つのは大事ですが、進路がこれしかないでは魅力に欠けると思います。興味を持ち学ぶうちに、こんな進路を取りたいというのが理想ではないでしょうか。

委員

それが先程言ったことで、進路の決まっていない人にとっては、進路先が見える形のほうが非常に良いわけだし、逆に自分を持って学んでいる人には、進路先をあまり限定しない方が良い。どちらの方が良いのかの判断は難しいと思います。

委員

今の時代は、勉強したら何にでもなれるかということとそうでもない。それよりも、人間として必要なことを身につけておくことが大切です。何事においても、選択することは難しく、やってみて、長い人生の中で評価されるものではないかと思えます。

また、流行はすぐに廃れますが、農業は日本の文化の中心であり、世界的にみても、その重要性は認められてきたところです。長期展望に立ったとき、食については、細々とでもつないでいく必要があると思えます。

事務局

教育のイメージ図で示しております”目指せ！（進路）”についてですが、前回の協議会で「進路がわかる資料」とのご要望がありましたので、目立つように示しておりますが、これは1つの例で、特徴的な進路を明示しているだけであって、各自の進路を限定するものではありません。

委員

中学生を勧誘する際には、常に、進路先を訴えるべきか、あるいは教育内容を訴えるべきかの迷いがあります。私としては、教育内容で勝負したいのですが、最終、保護者の意見が加わると進路の方が優先されてしまうのが現実です。

先程より話も出ている学科の置き方ですが、入学段階で一括募集し、2,3年で専門教育を行うのでは、専門教育にかかる時間が少なくなります。私は、中学校段階で学びたいことを決め、高校では最初から専門的な教育を行った方が良いと考えており、それが今の流れであると思えます。

本音では、人間教育を行い、農業の基礎学力を付けてやりたい。そうすれば、生徒はどのような方向でも選択できます。そうした核の部分をつくってやり、自然に進路が保障されていくのが良いと思うのですが、どうしても生徒募集の段階では、進路先が重視されることが多いので、非常に悩ましく迷うところでもあります。

委員

保護者は、どういう部分が不安で言ってくるのですか。

委員

「どんなところに進学できますか」、「どんなところに就職できますか」、「どんな資格が取れますか」などです。具体的な進路の保障を求めてきます。

委員

学校は、保護者のそうした疑問に答えられないのですか。

委員

答えられるはずなんです。「こういう人間性を身につければ、どんな道でも進めます」と言えば良いのですが、それでは答えにならないと思います。このことは、1対1で時間をかけて話をすればわかっていただけだと思いますが、説明会のような大きな場でご理解いただくのは難しいことです。

委員

例えば、工業高校等であれば資格を取らせることができ、こうした進路が取れる。親が心配するのは、出口の部分に尽きるのではないかと私は思います。

委員

今の時代は、勉強したければ進学できるところはたくさんあります。大切なのは人間力を培うことだと思います。

委員

私も方向違いのところで働いていますが、一人一人が個性を見極め、プロを目指すことが大切ではないかと思っています。

委員

私も教員になるために大学で学びましたが、その学び自体はあまり役立っていません。人間教育こそが大切です。その意味で、農業教育はその役割を果たせる面が多いと思います。

委員

要は、これという自信や誇りが持てる強さが出てくれば良いのではないかと、そうした事を作り上げていくことが大切であると思います。しかし、口で言うのは簡単ですが、実際には難しいことであると思います。

県教育委員会

基本的には自己実現が図れることが大切です。生徒が将来に目標を持って勉強する、あるいは将来の職業につながる、そうした自分の目標に向かって頑張れる環境を、それぞれの学校が提供していくことが重要であると思います。勝浦高校の場合には、農業を通して教育を行っていきませんが、「目指す教育」の中に、「生徒が将来に夢を持ち、自分の希望する進路の実現を目指す」と入れております。最後は、先ほど提案がありましたが「一人一人を大切にすること」に尽きるのではないかと思います。

委員

施設等の耐震化について、県はどのように考えていますか。

県教育委員会

県は、分校であっても将来的に残ると決まっている学校については、耐震化を順次進めてまいります。ですから、勝浦高校は分校で残ると決まっていますので、計画的に耐震化を行います。ただ、施設の中には使用しないために壊すものもありますが、今後、使用する施設等については耐震化を行います。しかし、その判断は教育課程を見なければわかりません。

委員

勝浦高校に赴任した時、地域連携や学校間連携など、ものすごく沢山のことに取り組んでいるなと思いました。職員には「学校を飛び出す」ことに意義があるということを話し、勝浦高校を宣伝してほしいとお願いをいたしました。「こんな教育をします」と言えば説得力もあるし、学校の存在感も出てくると思っております。そうした中、やはり、農業教育に絞りたい。県南の雄でありたい。そのために必要な基礎学力をしっかりと身につけさせたい。そういうことでカリキュラムが組めたらと考えております。

委員

キャッチフレーズばかりが先行して、ふたを開けてみて宣伝ばかりで中身がなかったでは、私が親であれば子どもには行かせたくはありません。学校を飛び出したら、その先に何があるのですか。

事務局

勝浦高校には82年の歴史と伝統があり、設立当時から「世に役立つ人になる」との考えが根底にあります。学校を飛び出すとは、いろいろな学びを仕掛けていくということです。

委員

先日、上勝町でのシンポジウムで、ある高校生が「町おこしに取り組みたいが、何をすればよいか教えてほしい」との質問に、コピーライターの糸井重里さんは「町おこしを考えるよりも、自分が何をしたいかを考えることが大切」と言われました。大切なのは、連携や組織ではなく、一人一人の居場所があり、個が光ることです。

委員

来年度は、是非キラリと光る学校にしたいと思います。

委員

本日は、設置学科とその教育内容についてご協議いただきましたが、農業科の2学科で、仮称ではございますが、1つを「応用生産科」、そしてもう1つを「園芸福祉科」とし、その教育内容については、ご意見をいただきましたが、了承していただいたということによろしいでしょうか。

委員

募集定員は、60人以下にしたいということですが、人数はできるだけ多くしてほしいと思います。また、新学科の教育内容が実施可能な施設・設備等の充実をお願いしたいと思います。これは要望してもいいのですか。

県教育委員会

人数については、今の段階では申し上げることはできません。ただ、必要な施設については、勝浦高校の施設の有効活用を含め、今後、考えさせていただきます。

委員

今後、この地域協議会をどのように進めていこうと考えていますか。あと2回ぐらい必要と思いますが、もしあと1回となるなら、あらかじめ資料を見せてほしいと思います。

県教育委員会

年度をまたぎますと、委員が代わる可能性もありますので、できれば年度内にまとめていただきたいと考えております。

県教育委員会

資料については、前もって見ていただけるようにしたいと思います。

委員

それでは、時間も押してきましたので、終了したいと思います。新しい教育については、農業科の2学科で、仮称ではございますが、科名を「応用生産科」と「園芸福祉科」、その教育内容についても、おおむね了承ということで、本協議会を閉じたいと思います。

本日は、ありがとうございました。